

21世纪日语本科系列多媒体教材



标准日语

现代语法教程综合练习册

陈访泽 刘小珊 编著

华南理工大学出版社

21 世纪日语本科系列多媒体教材

标准日语

现代语法教程综合练习册

陈访泽 刘小珊 编著



华南理工大学出版社

· 广州 ·

内 容 简 介

《标准日语现代语法教程综合练习册》是与普通高等教育“十一五”国家级规划教材《标准日语现代语法教程》配套的语法习题集,可供本、专科院校日语专业学生,自学考试学生以及有一定基础的日语学习者使用。

本书按照《标准日语现代语法教程》的语法体系编写。全书分为十章,各章均与《标准日语现代语法教程》保持一致。每章分为复习问题、练习问题和综合问题三个部分。

图书在版编目(CIP)数据

标准日语现代语法教程综合练习册/陈访泽,刘小珊编著. —广州:华南理工大学出版社, 2010. 4

(21世纪日语本科系列多媒体教材)

ISBN 978 - 7 - 5623 - 3099 - 8

I. ①标… II. ①陈…②刘… III. ①日语—语法—高等学校—习题 IV. ①H364 - 44

中国版本图书馆 CIP 数据核字 (2010) 第 063280 号

总 发 行: 华南理工大学出版社 (广州五山华南理工大学 17 号楼, 邮编 510640)

营销部电话: 020-87113487 87110964 87111048 (传真)

E-mail: scutc13@scut.edu.cn

http://www.scutpress.com.cn

策 划: 潘宜玲

责任编辑: 徐明媛

印 刷 者: 广州市穗彩彩印厂

开 本: 787 mm × 960 mm 1/16 印张: 10 字数: 196 千

版 次: 2010 年 4 月第 1 版 2010 年 4 月第 1 次印刷

印 数: 1 ~ 3000 册

定 价: 18.00 元

版权所有 盗版必究

前 言

《标准日语现代语法教程综合练习册》是与普通高等教育“十一五”国家级规划教材《标准日语现代语法教程》配套的语法习题集，可供本、专科院校日语专业学生，自学考试学生以及有一定基础的日语学习者使用。

本书一直作为《标准日语现代语法教程》试用教材的配套练习在日语专业高年级教学中使用，由于体系性和针对性强，便于教师讲课和学生自主学习，一直受到各方面的好评。《标准日语现代语法教程》正式出版时，内容和篇幅都有所增加。在教育部高等院校日语专业教学指导委员会和华南理工大学出版社的支持下，我们在原有的基础上也充实和增加了练习的内容，使《标准日语现代语法教程》作为专业教材更加趋于完善。

本书按照《标准日语现代语法教程》的语法体系编写。全书分为十章，各章均与《标准日语现代语法教程》保持一致。每章分为复习问题、练习问题和综合问题三个部分。复习问题针对各章的文字表述部分，采用语法术语和概念的填空形式；练习问题针对各章的具体语法内容，采用主观题和客观题等多种习题形式；综合问题采用阅读短文回答问题的方式，结合主观题和客观题巩固语法知识，针对范围不仅限于该章节，而是要涉及到《标准日语现代语法教程》全书。

本书由陈访泽、刘小珊编著，素材主要取自各种日语原版图书和词典。另外，在编写过程中还参考了相关著作和研究文献，在此谨向各位编著者致谢！由于内容经过多次修改，不妥之处在所难免，敬请广大读者批评指正。

编著者

2010年2月



目 录

第一章 文法序說	(1)
一、復習問題	(1)
二、練習問題	(2)
三、綜合問題	(7)
第二章 体 言	(10)
一、復習問題	(10)
二、練習問題	(11)
三、綜合問題	(16)
第三章 用言(一)	(18)
一、復習問題	(18)
二、練習問題	(19)
三、綜合問題	(26)
第四章 用言(二)	(29)
一、復習問題	(29)
二、練習問題	(30)
三、綜合問題	(35)
第五章 副用語	(38)
一、復習問題	(38)
二、練習問題	(39)
三、綜合問題	(47)
第六章 助動詞	(51)
一、復習問題	(51)





二、練習問題	(52)
三、総合問題	(61)
第七章 助詞	(64)
一、復習問題	(64)
二、練習問題	(65)
三、総合問題	(73)
第八章 敬語	(77)
一、復習問題	(77)
二、練習問題	(78)
三、総合問題	(84)
第九章 文の成分	(88)
一、復習問題	(88)
二、練習問題	(89)
三、総合問題	(95)
第十章 文の構造類型	(99)
一、復習問題	(99)
二、練習問題	(100)
三、総合問題	(106)
解答	(111)
参考文献	(149)

第一章 文法序説



一、復習問題

次の文章の（ ）に適切な言葉を書きなさい。

(一)

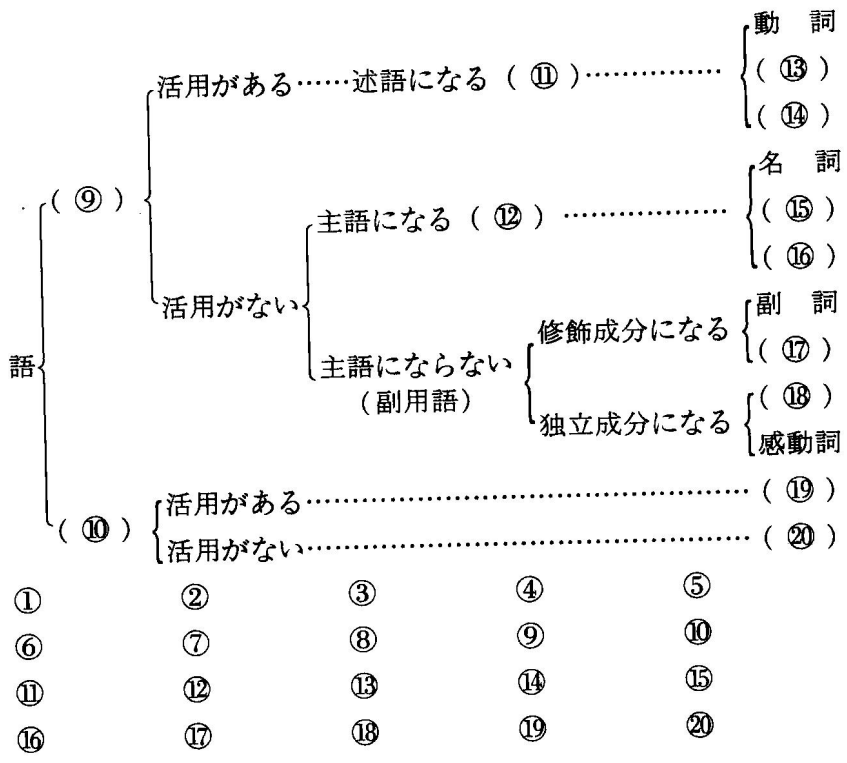
言語には一定の法則があり、この言語の法則が文法である。だが、一般に「文法」という概念には二つの意味がある。一つは言語の内部に客観的に存在する法則の(①)で、即ち語形変化の法則、構文の法則などの(②)である。もう一つはこれらの法則を研究する(③)で、即ち文法法則の体系を探求する科学的な(④)である。

(二)

日本語の文法理論は方法論的に(⑤)と(⑦)に分けられる。(⑤)は日本語研究の長い(⑥)を受け継いだもので、大槻文彦、山田孝雄、松下大三郎、橋本進吉、時枝誠記、渡辺実などの学者を代表として、今でもなお日本語文法教育において重要な位置を占めている。(⑦)は西洋の(⑧)言語学理論(主としてチョムスキーの理論)の影響を受けて発達してきたもので、久野暉、奥津敬一郎、井上和子、柴谷方良などの学者を代表として、日本語の科学研究において重要な意義を持っている。

(三)

語の形態、意味と機能によって、日本語の語は次のように、12の品詞に分類される。



二、練習問題

1. 例を挙げて、次の用語を説明しなさい。

- | | |
|---------|----------|
| (1) 語 | (2) 文節 |
| (3) 連語 | (4) 文の成分 |
| (5) 節 | (6) 文 |
| (7) 自立語 | (8) 付属語 |
| (9) 一語文 | (10) 有題文 |

2. 日本語の文法特徴を説明しなさい。

- | | |
|--------|--------|
| (1) 膠着 | (2) 活用 |
| (3) 語順 | (4) 敬語 |

3. 次の質問に答えなさい。

- (1) 日本語の文は構造によってどのように分類するのか。
- (2) 日本語の文は主題によってどのように分類するのか。
- (3) 日本語の文はモダリティによってどのように分類するのか。
- (4) 日本語の文は文体によってどのように分類するのか。



(5) 日本語の文は述語によってどのように分類するのか。

4. 次の下線部の言葉の品詞名を括弧に書きなさい。

- (1) あの時本当に恥ずかしい思いをした。()
- (2) 水がなければ、生きてゆけない。()
- (3) もっと右の方へよrinaさい。()
- (4) テニスもうまいし、それに馬術もうまい。()
- (5) 何でもないことなのに手間取った。()
- (6) さっそく改めなければならぬ。()
- (7) これは単なる経済上の問題ではない。()
- (8) これはどうもおかしな話だね。()
- (9) さあ、分かりませぬ。()
- (10) 研究の動機は、それから話したいと思います。()
- (11) 金網を通して巣箱を見た。ある、確かにある。()
- (12) 今日は僕の誕生日だから、必ず来てくれますね。()

5. 次の各組から品詞の違うものをそれぞれ一つ選びなさい。

- (1) A わざわざ B いきなり C はっきり D しかし
- (2) A どれ B どこ C どの D どちら
- (3) A 愉快的 B きれいな C 嫌いな D 大きな
- (4) A 切る B 或る C 減る D 乗る
- (5) A さら B ほら C あら D もしもし
- (6) A あまい B うまい C めまい D せまい
- (7) A けれども B だから C もちろん D そして
- (8) A はずだ B ようだ C そうだ D らしい
- (9) A こと B もの C ため D だけ
- (10) A 楽しさ B 悲しげ C 苦しみ D うれしさ

6. 次の文は文節の区切り方が一ヶ所間違っている。その部分はどれか。

(1) 彼は しばらくの間 その 姿勢で ほんやり 考え込んだ。

A B C D

(2) 月が 明るく 川の 面を 照らし 始めた。

A B C D

(3) 本当 ですか。なに、わたしを 泊めて くださるの。

A B C D

(4) 何かを 主張する 場合は 証拠を はっきり 示すことが 大切です。

A B C D

(5) 私は 今年こそ しっかり 勉強しよう と思います。

A B C D

(6) ようやく 弟が 納得した ので、私は ほっとした。

A B C D

7. 正しい説明を次の各組から一つ選びなさい。

(1) A 自立語は必ず活用する。

B 自立語にも付属語にも活用する語がある。

C 自立語の中には活用するものがあるが、付属語の中には活用するものがない。

D 付属語の中には活用するものがあるが、自立語の中には活用するものがない。

(2) A 付属語は自立語の前につく。

B 付属語は自立語の後につく。

C 付属語は自立語の前につく場合もあれば、後につく場合もある。

D 付属語は自立語の後につかない場合がある。

(3) A 体言は名詞の別称である。

B 体言イコール名詞である。

C 体言の中に名詞を含まない。

D 体言の中に名詞を含む。

(4) A 文節にはただ一つの単語でできているものもある。

B 文節はいくつかの単語からできている。

C 文節はいくつかの文が結合してできている。

D 文節は一つの単語からはできないのだ。

(5) A 文は必ず二つ以上の文節からできている。

B 文は少なくとも五つ以上の文節からできている。

C 文は一つの文節からできる場合もあるが、普通いくつかの文節からできている。

D 文は一つの文節からはできないのだ。

(6) A 連語は二つ以上の単語からできている。

B 連語は二つ以上の文節からできている。



- C 連語は一つの自立語と一つの付属語からできる場合がある。
D 連語には二つ以上の自立語が含まれている。
- (7) A 主語は直接成分である。
B 主語は格成分ではない。
C 主語はいつも文頭に来る。
D 主語は独立成分の一つである。
- (8) A 複文は二つ以上の単文からできている。
B 複文は必ず主節と従属節からできるものだ。
C 複文は二つ以上の節からできている。
D 複文は文は一つの節からできる場合もあるが、普通いくつかの節からできている。
8. 次の問題の答えをA、B、C、Dの中から一つ選びなさい。
- (1) 日本語の言語単位は全部で何種類あるか。
A 7種類 B 8種類 C 9種類 D 10種類
- (2) 我が国の日本語教科書における日本語の品詞分類は何種類あるか。
A 6種類 B 8種類 C 10種類 D 12種類
- (3) 日本語の文の成分は全部で何種類あるか。
A 9種類 B 11種類 C 13種類 D 15種類
- (4) 日本語の複文は何種類あるか。
A 2種類 B 3種類 C 4種類 D 5種類
- (5) 日本語の文法特徴でないのは、次のどれか。
A 漢字 B 膠着 C 活用 D 敬語
- (6) 日本語の文法単位でないのは、次のどれか。
A 語 B 連語 C 文 D 文章
- (7) 副用語は次のどれですか。
A 形容詞 B 助動詞 C 副詞 D 代名詞
- (8) 「小川の水が音もなく流れています」という文において、「音も」と「なく」の関係は次のどれか。
A 主語と述語 B 修飾語と被修飾語
C 補語と述語 D 補助
- (9) 「研究の動機はそれから話したいと思います」という文において、「研究の動機は」と「話したい」の関係は次のどれか。

A 主語と述語

B 目的語と述語

C 補語と述語

D 修飾語と被修飾語

(10) 「農薬そのものが悪いわけではない」という文において、「農薬」と「そのもの」の関係は次のどれか。

A 主語と述語

B 補語と述語

C 並列

D 修飾語と被修飾語

9. 正しい説明に○を、間違った説明に×を付けなさい。

- (1) 日本語の文を構成する要素と要素の関係は自立語についた付属語によって表される。()
- (2) 日本語の用言の活用は英語のように、性、数、格、人称などと関係がある。()
- (3) 日本語の活用は主にテンス・ヴォイス・モダリティなどを表す要素を接続させるためである。()
- (4) 日本語の文は、最後まで読まなくてもよく分かる。()
- (5) 日本語の述語と直接関係する要素の語順は自由とは言えない。()
- (6) 日本語では、述語は文末に置かれ、主語はそれに先立つ。()
- (7) 日本語の敬語が発達していて、独特な敬語文法をなしている。()
- (8) 敬語の表現は述語によって決まる。()
- (9) 連語は、二つ以上の自立語が一定の文法関係によって構成された言語単位である。()
- (10) 語は語彙の単位で、文法の単位ではない。()

10. 次の文を語に分け、その数を括弧に書きなさい。

- (1) 山路を登りながらこう考えた。()
- (2) 智に働けば角が立つ。()
- (3) 情けに棹させば流される。()
- (4) 意地を通せば窮屈だ。()
- (5) とかくに人の世は住みにくい。()
- (6) 悲しみは長く、喜びは短いと言われる。()
- (7) 人間は憂いには同感しやすく、陽気な気分には同化されにくいのが普通である。()
- (8) 文章と講演との距離は、文章と会話との距離よりも小さいといえる。()



- (9) 日本語は曖昧なことを表すのに適し、理論的なことを表すのに適さないという人がいる。()
- (10) 道がつづら折りになって、いよいよ天城峠に近づいたと思うころ、雨あしが杉の密林を白く染めながら、すさまじい早さで麓から私を追ってきた。()

11. 次の文を文節まで分析し、その数を括弧に書きなさい。

- (1) 長い歴史の間に、住まいは単に自然から身を守るばかりでなく、生活を豊かにするものとなってきた。()
- (2) 小川の水が音もなく流れています。()
- (3) 緑の野山と静かな湖は、この土地の財産だ。()
- (4) あたりはまだうす暗く黒々と体を横たえたその船のかげでは、どの人々も船出の準備に追われる。()
- (5) 途中で立ち寄ったコンビニエンスストアで、新井さんはマンガ雑誌のコーナーに足を止めた。()
- (6) 学校へ行く前におじいさんの所へご挨拶に行く。()
- (7) 人間は不可能と思われたことを次々と可能にしてきた。()
- (8) 私はこの自己本位という言葉をも自分の手に握ってからたいへん強くなった。()
- (9) 読書には楽しみのための読書もあれば、知識を得るための読書もあります。()
- (10) 昨夜からの物狂おしく降りしきった雨も、今朝はがらりと上がった。()

三、総合問題

1. 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

紅葉も終わりました。菊もすがれました。梢にいくつか①残っていた渋柿の赤い実も、②もうなくなりました。十二月になれば、わたしたちの回りからは、③どどん色が④消えてしまいます。毎日に⑤寒く冷たく、なにかに追いかけてきているような、こせついた⑥気になります。それをまた⑦一層あおって乾いた⑧風が吹きつけます。そうすると、裸になった木の枝がひゅうと細い声を出しますし、建物の角なども⑨いやな音をさせて⑩泣きます。——⑪すっかり冬になってしまえばいやではありませんが、冬に⑫する時はいやです。



- 問1 下線部①「残っていた」における「残って」と「いた」と同じ関係の連語を、下線部④⑤⑥⑧から一つだけ選びなさい。
- 問2 下線部②③⑦⑨のうちから、品詞の異なるものを一つだけ選びなさい。
- 問3 下線部⑩「泣きます」の主語に当たる言葉を文章中から抜き出して書きなさい。
- 問4 下線部⑫にはどんな言葉が入るか。下線部⑪「すっかり……ありません」の中の言葉を活用させ、前後の意味がつながるようにして、一文節の形で書きなさい。

2. 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

言葉の客観的効果は、主として論理に頼っており、その主観的効果は心理に根ざしております。とすれば、言葉は常に論理的側面と心理的側面との二重性を①二ナっていると言えましょう。私たちの現代語がほとんど拾収すべからざる混乱状態に陥っているとすれば、②その主なる原因は、言葉の持つこの二つの働きの間に大きなギャップがあるということになります。私たちの日常生活における誤解とか行き違いとかいうものは、よく考えてみれば、たいていこのギャップから生じているのです。例えば、私の作品の冒頭で、「また雪が降ってきたわ」という妻の言葉に対して、「うん……」という夫の言葉は、論理的に正しい。妻にはなんら文句をいうべき筋あいはない。しかも妻に不満が残るとするのは、妻の「また雪が降ってきたわ」というせりふが、論理的な意味よりも、「二人で話しがしたい」という心理的な発言であるからです。

③ところが、世のあらゆる夫婦げんかにおいて、お互いが相手の言った言葉を検討しあい、「君がああ言ったから」とか「あなたはこう言ったじゃないの」とか、いさかう場合、ほとんど常にといいほど、この言葉の心理的効果を④無視し、論理的効果のみを⑤問題にしています。言いあっているうちに、相手の⑥それを無視するばかりでなく、うかうかすると自分の言葉についてさえ、⑦それを見失ってしまって、口で言いまかされ、しかも、「自分のほうが正しいのに」と悔しがる。⑧それでは勝ったほうも後味が悪いということになります。

- 問1 下線部①の漢字と同じ漢字を含むものを次の中から選びなさい。

A フタンを軽くする。

- B 商品のタンカを決める。
- C 時間をタンシユクする。
- D タンセイをこめて作る。

問2 下線部②の文の構造類型は次のどれか。

- A 単文
- B 主従文
- C 包摂文
- D 並列文

問3 下線部③「ところが」は文の成分として次のどれか。

- A 修飾成分
- B 独立成分
- C 直接成分
- D 間接成分

問4 下線部④「無視し」と⑤「問題にしています」の主語に当たる言葉は省略されているが、それを補って書きなさい。

問5 下線部⑥、⑦の「それ」は何を指すか、答えなさい。

問6 下線部⑧の文は幾つの文節から成り立っているか。

- A 7文節
- B 8文節
- C 9文節
- D 10文節



第二章 体言

一、復習問題

次の文章の（ ）に適切な言葉を書きなさい。

(一)

体言は（①）と対立する概念で、古典文法から来たものである。体は「実体、本体」の意、言は「言葉」の意だから、体言は「実体を表す言葉」である。体言には名詞、（②）、（③）がある。体言に共通する文法特徴は、（1）（④）がない、（2）（⑤）の修飾を受ける、（3）後に付属語をつけて文の成分になる、などが挙げられる。

(二)

名詞はまず大きく（⑥）と（⑦）に分けられる。（⑥）は実質的な意味を持つ名詞で、（⑦）は実質的な意味を持たない名詞である。実質名詞はさらに（⑧）と（⑨）に区別される。（⑧）は実在の人や物事を表す名詞で、（⑨）は抽象的な概念を表す名詞である。具体名詞はまた（⑩）と（⑪）に分けられる。（⑩）は同類の物の共通名称を表す名詞で、（⑪）は個別の物の専用名称を表す名詞である。

(三)

格は（⑫）の一つである。名詞の格とは、名詞が文中の他の語に対してどんな（⑬）的な関係を持つかを表すものである。日本語では、名詞の格は主に「名詞＋（⑭）」の形で表示され、全部で二大別17種類ある。

（⑮）による文の成分は「格成分」という。格成分は（⑯）格成分と（⑰）格成分に区別される。（⑯）格成分は述語の意味の実現にとって必要不可欠の要素であるが、（⑰）格成分は述語の意味の実現に必要な要素ではない。

(四)

形式名詞は（⑱）では文の部分にならず、他の（⑲）的な意味を担う語と組合わせて文の部分を構成する。具体的には、前に連体修飾語を受けたり、決まった（⑳）に現れたりして用いられる。

- | | | | | |
|---|---|---|---|---|
| ① | ② | ③ | ④ | ⑤ |
| ⑥ | ⑦ | ⑧ | ⑨ | ⑩ |
| ⑪ | ⑫ | ⑬ | ⑭ | ⑮ |
| ⑯ | ⑰ | ⑱ | ⑲ | ⑳ |

二、練習問題



1. 例を挙げて、次の用語を説明しなさい。

- | | |
|-----------|-----------|
| (1) 体言 | (2) 複合名詞 |
| (3) 派生名詞 | (4) 転成名詞 |
| (5) 人称代名詞 | (6) 反照代名詞 |
| (7) 基本数詞 | (8) 数量数詞 |
| (9) 順序数詞 | (10) 形式名詞 |

2. 次の質問に答えなさい。

- (1) 名詞は意味によってどのように分類するのか。
- (2) 名詞は構成によってどのように分類するのか。
- (3) 名詞は語源によってどのように分類するのか。
- (4) 代名詞はどのように分類するのか。
- (5) 数詞はどのように分類するのか。

3. 次の文章における下線の名詞を普通名詞、固有名詞、抽象名詞、形式名詞、代名詞に分けなさい。

その坂を向こうへ下りきると、また同じような茶店があった。土工たちがその中へはいった後、良平はトロッコに腰をかけながら、帰ることばかり気にしていた。茶店の前には花の咲いた梅に西且の光が消えかかっている。「もう日が暮れる。」彼はそう考えると、ほんやり腰かけてもいられなかった。トロッコの車輪をけってみたり、ひとりでは動かないのを承知しながら、うんうんそれを押してみたり、そんなことに気持ちをまぎらせていた。

普通名詞	
固有名詞	
抽象名詞	
形式名詞	
代名詞	